



Reclaim the Glory ~浦和レッズ、アグレッシブを忘れるな!~

動機

浦和レッズの現状: J1リーグの14位/18チーム(2019)

	2015	2016	2017	2018	2019
浦和レッズ	3位	2位	7位	5位	14位

浦和レッズの現状: J1リーグ14位/18チーム(2019)
 →上の表から分かるように、浦和レッズは2017年から段々と順位を落としている。そこで、浦和レッズを再起し順位を回復させ、また応援されるチームになってほしいと思った。そこで順位が悪化する境界となった2017のデータに注目し、浦和レッズが上位に戻るための解決策を探した。

分析 I

仮説①: 試合においてボールをより多く持っているチームが勝っているのではないかと。

分析①: J1に3年連続で在籍したチームの平均支配率を分析する。得点に絡んでくるプレー(シュート、ゴール)の数と平均支配率の相関を調べる。

図1 J1に3年連続で在籍したチームの平均支配率の推移

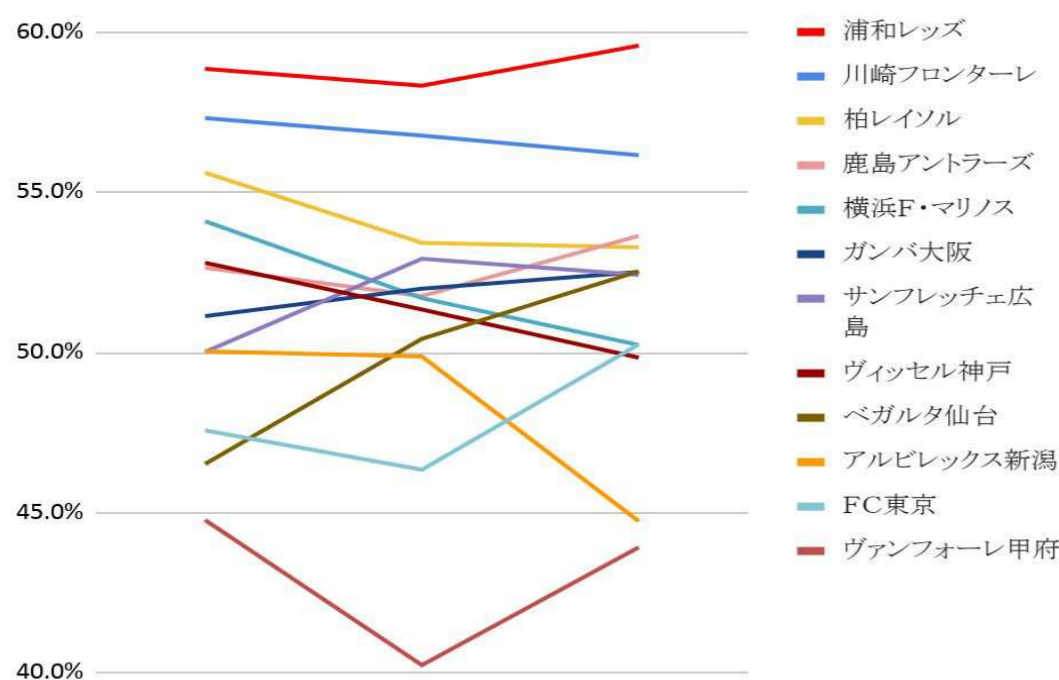
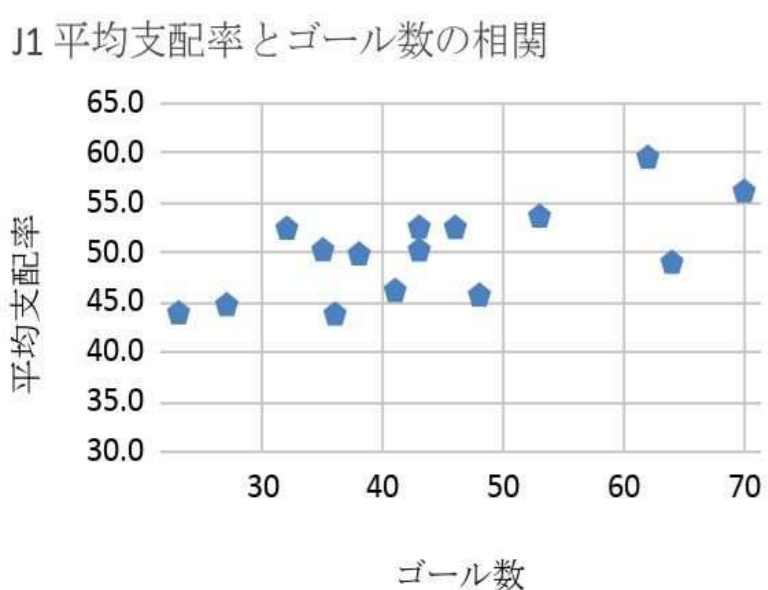
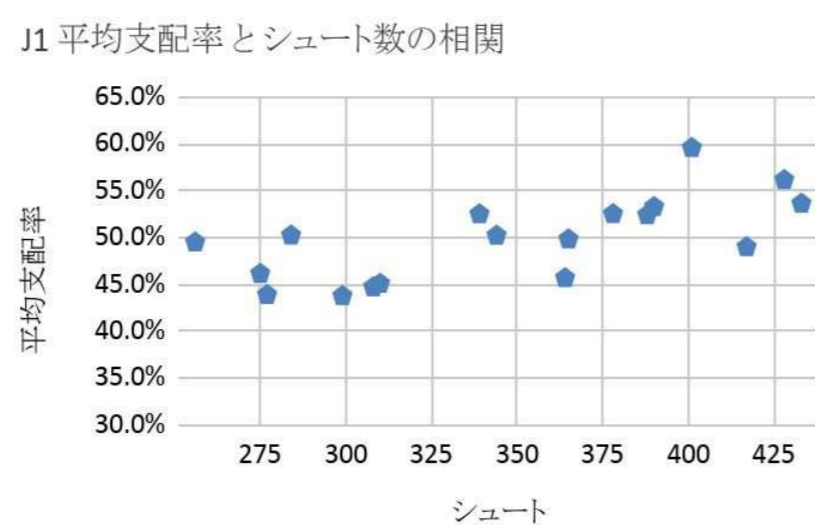


図2 2017年J1の平均支配率とゴール数の相関



相関係数=0.64
(やや強い相関)

図3 2017年J1の平均支配率とシュート数の相関



相関係数=0.68
(やや強い相関)

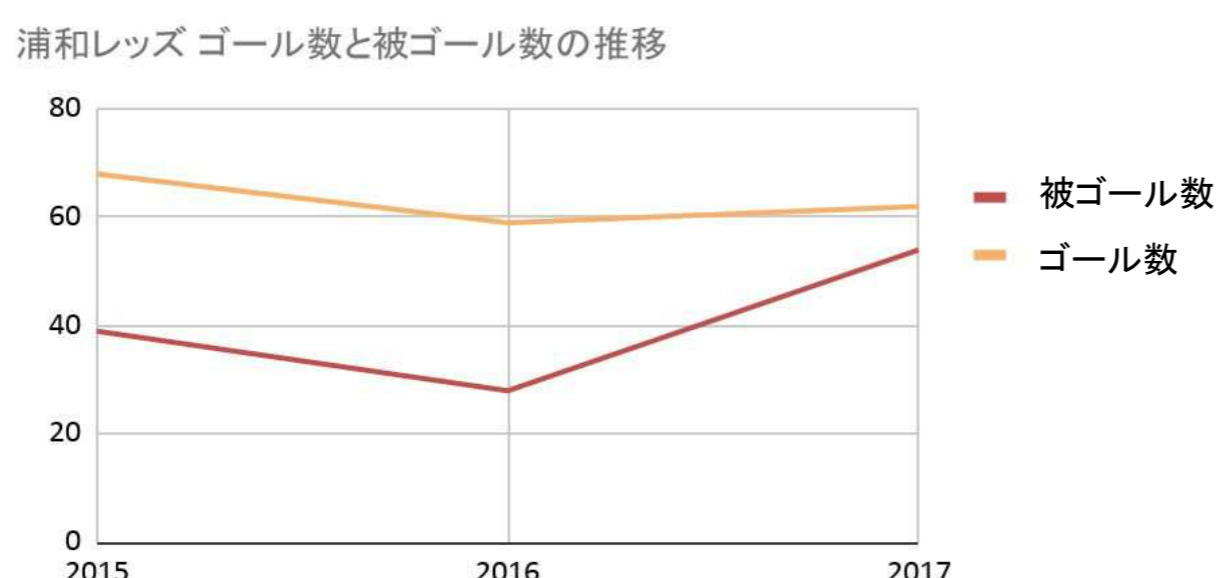
考察①: 図1でJ1に在籍しているチームは半数以上が平均支配率50%以上を保っていること、平均支配率とシュート数、ゴール数との相関においてやや強い相関が見られることから、平均支配率は勝利に関わってくると考えられる。

分析 II

仮説②: 浦和レッズは平均支配率がJ1の中でも高いが、順位が上がらないのは得点数と失点数が関わっているのではないかと。

分析②: 浦和レッズの得点数(ゴール数)と失点数(被ゴール数)の推移を見てみる。

図3 浦和レッズの3年間のゴール数、被ゴール数の推移



考察②: 浦和レッズの得点数の変化はあまり見られなかったが、失点数が2017年に大幅に増えている。

分析 III

仮説③: 失点数が増加傾向にある浦和レッズのDFに課題があるのではないかと。

分析③: DFへの積極性を示すアタッキングサード、ミドルサード、ディフェンシブサードにおけるタックル数と各ポジションのイエローカードの数にどのような変化があるか調べる。相手のどのような形で点数を決められたのか調べるために、被アシストの種類別推移(FK、スローイン、その他を除く)を比較した。PA内からのゴール数の変化の仕方を調べる。

図4 3年間のAT、MT、DTでのタックル数の推移

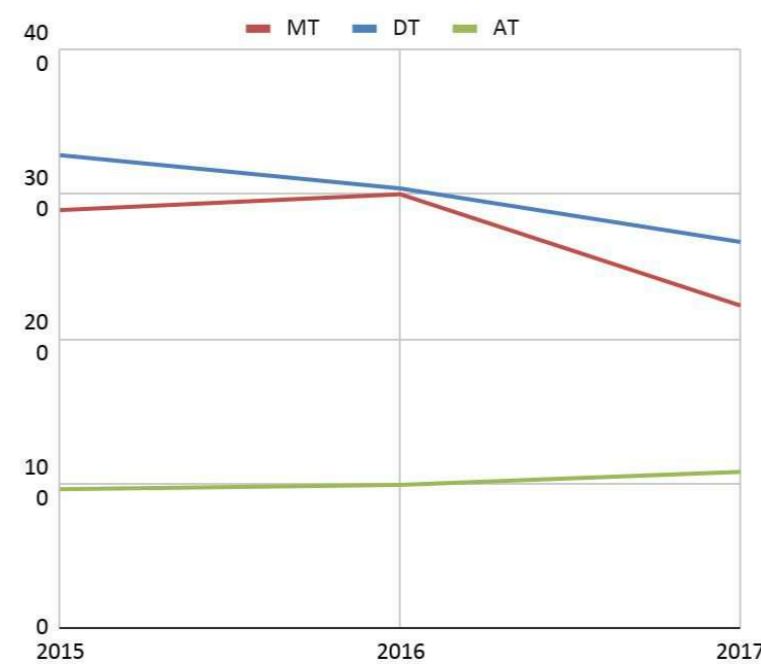


図5 3年間のFW、MF、DFのイエローカードの数の推移

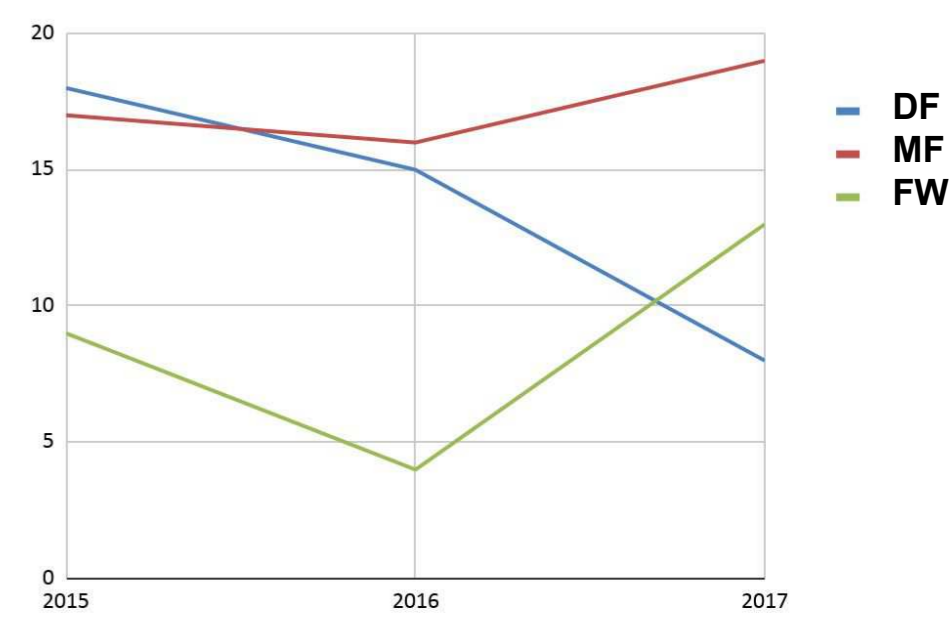


図6 3年間の被アシスト数の推移(クロス、スルーパス、CK)

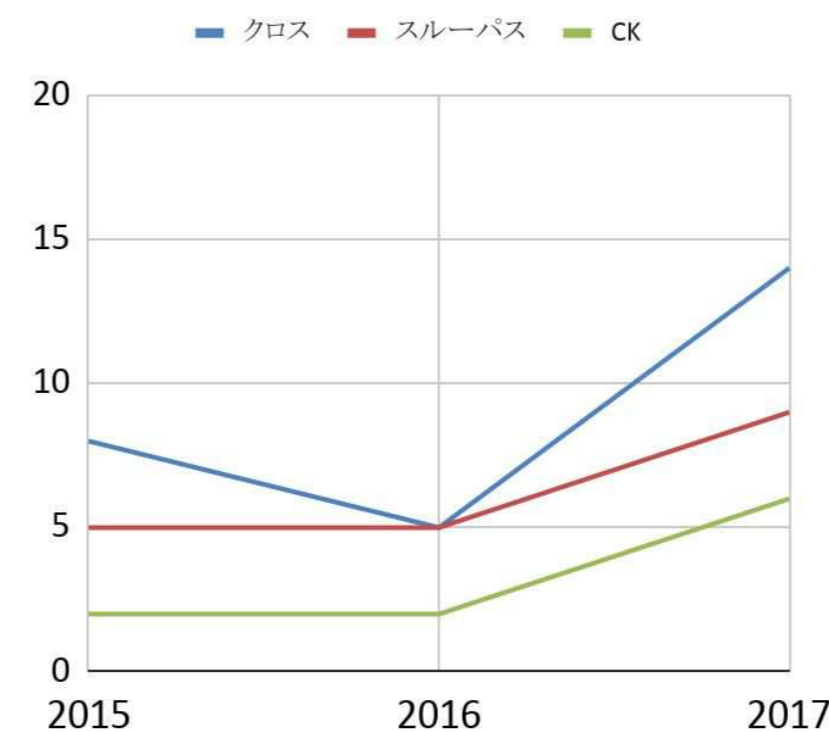
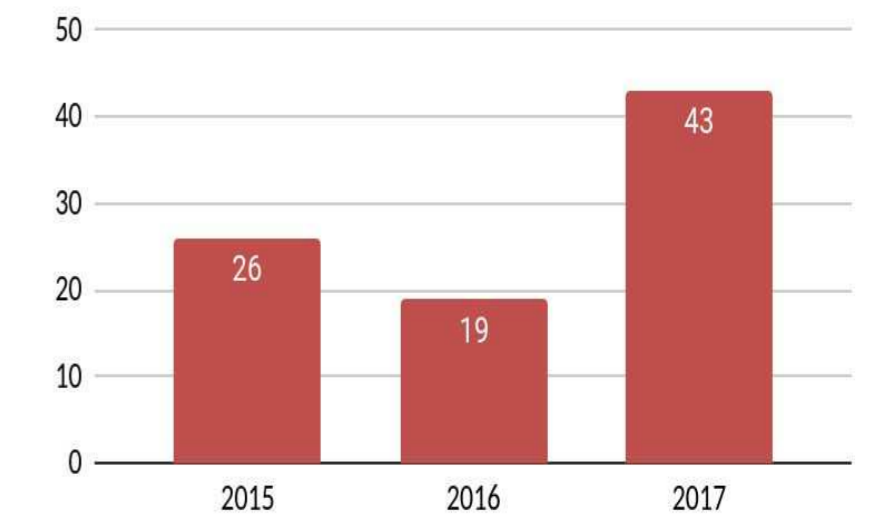


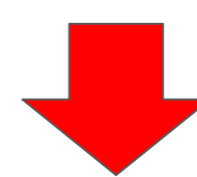
図7 PA内(セットプレーを除く)からのゴール数の変化



考察③: 図4からディフェンシブサード、ミドルサードでタックル数が減少している。また、図5から、DFの選手のイエローカードの数も減少している。タックル数やイエローカードが減少していることから、DF選手のディフェンスへの積極性、また最後までボールを奪いに行く執着心が薄いことが考えられる。加えて、図6からクロスで得点を決められている事が増えてきている。それに伴い、PA内からの被ゴール数が増えていることから、PA内での守備がもろくなったと考えられる。

仮説の検証

- 平均支配率は勝利に関わる要素の一つである。
- 浦和レッズは失点数が増えていることによって2017年は順位を落としている。
- 浦和レッズはDFの積極性の低下や、PA内での守備がもろくなったことにより失点していることが守備における課題である。



提案

- 浦和レッズが課題であった失点数を減らし、順位を上げるために
- DFのタックルの積極性を高めることを徹底する。
 - PA内での守備を強化する。

今後の課題: ボールの平均支配率と、浦和レッズの順位との関連性を見つけれなかった。
 ボール平均支配率とより密接に関わっているデータとの関係も調べたい。